

海をこえてのおくりもの

福島県 福島第三小学校 5年 遠藤 萌花

今、中学校1年生の姉が小学校2年生のときに、母が『ランドセルは海をこえて』という本を見つけてきました。この本の中には、自分たちが使わなくなったランドセルをアフガニスタンの子どもたちにプレゼントをするという企画がのっていました。

本の中にのっている写真には、アフガニスタンの子どもたちが大事そうに使っている様子がありました。うれしくて飛び上がっている子や笑顔でランドセルをだきかかえている子もいます。けしてランドセルは新品ではありません。6年間使い続けているのでぺちゃんこになったり、色がうすくなっているところもあると思います。でも、大切に机やかばんとして使ってくれるのも、古くても快く使ってくれるのはとてもうれしいなあと感じました。そして自分が比かく的めぐまれていることに感謝すると同時に、何でも新しいものがほしくなってしまうことがとてもはずかしく感じました。

去年卒業した姉のランドセルは、来年の2月に「ランドセルは海をこえてプロジェクト」によって、アフガニスタンに送られます。母はこの企画を知ったときから、姉にも私にも、「ランドセル、大事に使ってね。卒業したらアフガニスタンの子に使ってもらおうよ。」と言って、ランドセルにきずがつかないように、とうめいのランドセルカバーを付けてくれました。そのおかげで姉のランドセルは、ほとんどきずがありません。私のも、どこもこわれていません。

海をこえて、どんな子が使ってくれるんだろうと思うと、今からワクワクします。ランドセルを背おって学校に通うアフガニスタンのお友だちを想像するとうれしくなります。

母は、

「これは、相手がだれだかわからないから、親切を示したとしてもけして自分にお礼を言ってくれるわけではない。見返りを求めない親切、それが本当の親切なんだよ。」そう教えてくれました。

私たちは、親切を示すと何かお返しを期待してしまうことがあるかもしれません。それではいけないんだなあと思いました。そして、心からしてあげたいという、こういうプロジェクトが続いていけばいいなあ。私のランドセルはあと2年後に海を渡ります。

待っていてね。アフガニスタンのお友だち。